

飽水管理の継続 高温登熟を想定して収穫適期を判断(刈遅れに注意)

1 水管理のポイント

- (1) 基本的な水管理
- ① 地域の利水状況を確認し、出穂後25日以降まで飽水管理を継続して下さい。
 - ② 用水確保が可能な地域では地耐力の確保に配慮しながら出穂期30日後まで飽水管理を継続し、継続できない場合や成熟期が遅い品種は灌水可能期間の終期に十分湛水する等して土壌水分を保持して下さい。 早期落水は倒伏や品質・収量等の低下につながります。
- (2) フェーン等が予想された場合
- ① 極端な高温やフェーンが予想される場合は、地域の用水計画に応じて早めに湛水して下さい。
 - ② 高温時の長期間の湛水は根腐れを助長するため避けて下さい。

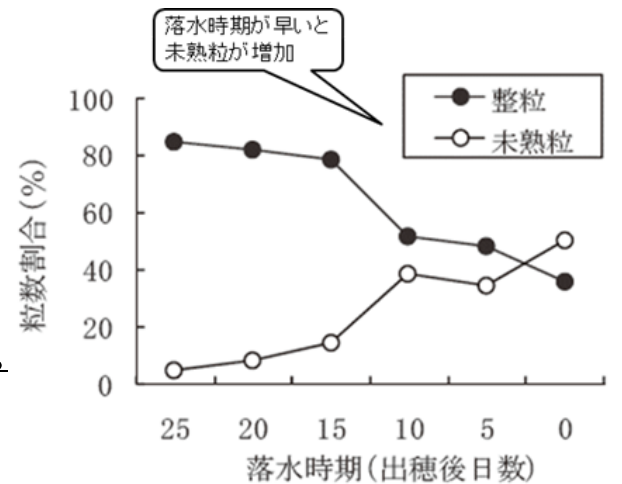


図1 落水時期と品質

2 品種別の収穫適期のめやす

(1) 出穂期と収穫適期のめやす

- ① 平坦地の早生品種では、出穂期後5～24日後の20日間の平均気温が概ね26℃を超える「高温登熟」に該当する見込み。高温登熟になると基部未熟や立毛胴割れの発生が増加するため、表1、2を参考に収穫適期を判断し刈遅れに注意して下さい。
- ② 「高温登熟」で推移した場合、収穫適期をめやすより50℃(2日程度)早めて下さい。
- ③ なお、積算気温はめやすですので、実際の収穫適期はほ場ごとに籾黄化率を確認して判断をお願いします。

「表1 本年の出穂期のめやすと平温年での収穫適期のめやす(8月5日現在)」

	品種名	出穂期のめやす	出穂期後の積算気温	収穫適期のめやす
早生	新潟次郎	7月15日～7月17日頃	1,000℃	8月23日頃から
	つきあかり(平坦地)	7月19日～7月21日頃	1,000℃～1,100℃	8月27日頃から
	つきあかり(山間地)	7月30日～8月1日頃	1,000℃～1,100℃	9月10日頃から
	わたぼうし	7月21日～7月23日頃	975℃	8月26日頃から
	こしいぶき	7月26日～7月28日頃	975℃	9月1日頃から
中生	こがねもち(中山間地)	8月4日～8月6日頃	1,000℃	9月16日頃から
	コシヒカリ(平坦地)	8月1日～8月3日頃	1,000℃	9月9日頃から
	コシヒカリ(中山間地)	8月8日～8月10日頃	1,000℃	9月21日頃から
	にじのきらめき	8月4日～8月6日頃	1,100～1,200℃	9月17日頃から
晩生	新之助	8月7日～8月9日頃	1,050～1,100℃	9月18日頃から
	みずほの輝き	8月10日～8月12日頃	1,050～1,200℃	9月22日頃から

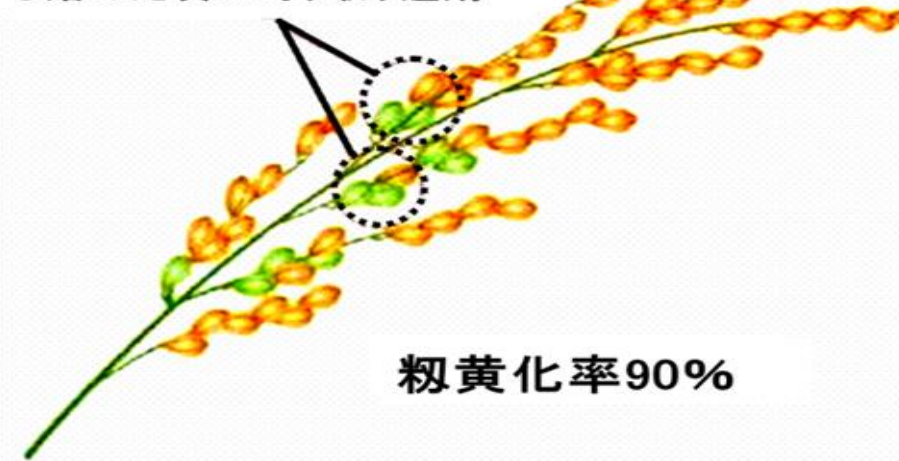
表1

- 積算気温の平坦地は高田のアメダス、中山間地は関山のアメダスのデータを用いて収穫適期のめやすを算出(8月6日以降は平年値を使用)。
- ほ場ごとに収穫適期は異なる

(2) ほ場ごとの収穫適期判断

- ① 積算温度はめやすとして活用し、実際の収穫は下図を参考に圃場ごとに判断して下さい。
- ② 収穫適期は穂全体の85～90%が黄化し、穂の基部に緑色の籾が一部残っている頃です。
- ③ 収穫期は茎葉の色だけでなく、必ず籾の黄化率を確認した上でほ場ごとに判断して下さい。
- ④ 高温登熟年には刈遅れによる基部未熟粒の発生が増加しますので、適期収穫に努めましょう。

穂中位の二次枝梗の先端から2～3番目の籾が緑～黄化し始めた頃が刈り取り適期



適期確認の流れ

- ① 1次枝梗が9本程度の平均的な穂を選ぶ
- ② 中位の1次枝梗の中から2次枝梗を探す
- ③ 2次枝梗の先端から2,3番目の籾の黄化を見る
- ④ 2,3番目の籾が黄色に変わりかけている頃がその穂の収穫適期
- ⑤ 同様に10本の穂を調べ、8本以上が当てはまれば、そのほ場の収穫適期

